

平成23年度私立学校初任者研修 関東地区千葉県研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修関東地区千葉県研修会が、6月14日（火）から16日（木）の3日間、ホテルグリーンタワー幕張で開催され、千葉県内から定員を大きく超える88名の初任者教員が受講した。千葉県内の私学が54校であるから、1校につき1.5人近い参加ということになる。

初日はまず、千葉県私学団体連合会会長でもある学校法人市川学園理事長・学園長、古賀正一氏の講演「私学の進歩は無限…教員の教育力は私学の価値を決める」に始まった。私学教員として、仕事に臨む自覚をうながす講演であり、この研修の幕開けにふさわしい内容であろう。



午後からは、木更津総合高等学校副校長、真板龍太郎氏と市川中学・高等学校副校長、及川秀二氏による「専任教員の職務」についての講演があり、私学をめぐる厳しい社会情勢を意識させられた。



その後は、千葉県警察本部の上席相談専門員である遊間千秋氏による講演「生徒指導の理解と対応について、カウンセリングマインド」へと続き、問題行動を起こす生徒への対応など、生徒指導をめぐる具体的な内容が語られた。

研修2日目は、まず午前中に、元国内航空会社客室乗務員でイメージコンサルタント通訳ガイドである日野聖保子氏を迎えて、「社会人の為のビジネスマナーについて」をテーマに、講義と実習を行った。研修は、あいさつや電話対応など、社会人としての基本的なマナーを、実際に体を動かして実践しコミュニケーション学ぶ実習であった。



休憩を挟んで次に始まったのはその後、千葉商科大学附属高等学校副校長と遠藤行巳氏と成田高等学校教頭、田中康之氏による「学習指導」の研修が行われた。「脱ゆとり」が求められている今日の社会情勢において、良い授業して生徒に基本的な学力を付けさせることは、私学にとって至上命令であろう。授業こそが教師の基本である、という教育の原点を考えさせられる講義であった。

午後からは、「ホームルーム指導」を、千葉明德中学・高等学校校長、園部茂氏と同校教頭、宮下和彦氏と聖徳大学附属女子中学・高等学校副校長、萩原昇氏の3名に指導を受けた。学級担任を持つことは、教師として、最もやりがいのある仕事である。が、同時に悩みを抱えるのもまた学級担任であろう。3氏は、自らの実体験を紹介して、学級担任の面白さや大変さを具体的に語っていただいた。初任者にとって、大いに刺激になった様子だった。

数多く行われた講義は、2日目の午後で終了し、その後の日程では、6つのグループに分かれての自由討議が行われた。議題は「自分たちの理想とする私立中学・高校を、千葉県内に開校させること」というテーマで、各自の教育観・学校観・プラン力などが試される内容である。

受講者たちは、午後3時半から夕食を挟み、正規の研修時間である夜8時半を過ぎても熱心に話し合いを続けていた。多くのグループでは、宿泊所に戻ってからも深夜まで討議を続けていた。

翌、研修3日目。各グループによる「理想の学校」発表が行われた。前日の深夜まで話し合われた成果を、指導員および他グループの前でプレゼンテーションした。

最後に、どのグループの発表が優れていたか、投票が行われ、閉会式では優勝グループの表彰がなされて3日間の研修は幕を閉じた。



(高山博通)